



梨の花が一面を純白に染める梨園

## 町並みについて

- ◆ 毎床地区は、球磨川支流の那良川の河岸段丘から後背の尾根裾に至るなだらかな斜面に、梨園や棚田が広がる農村集落です。
- ◆ 一勝地梨の産地として知られる同地区は、260年以上前の江戸期に造られた、総延長が約8kmに及ぶ「毎床溝」が地区内を縦横に巡り、地域住民の生活を支えています。
- ◆ 春になるとやさしい太陽の光を浴びた純白の梨の花が咲き誇る梨園をはじめ、美しい棚田や山々が織りなす見事な風景が広がっています。



## 町並みの中心(核)となる伝統的建造物



### まいとこみぞ 毎床溝

- ◆ 毎床溝は、那良川より高い位置にある毎床地区の干ばつを解消するために造られた溝で、同地区から那良川の4kmほど上流に堰を造り、岩をくり抜いて隧道を通すなど手作業で溝を掘り進める難工事の末、完成しました。
- ◆ 1951年に溝は素掘りからコンクリート造りに姿を変えましたが、現在も毎年3月になると水を止め、「井出普請」とよばれる修繕作業を地区の住民総出で行い、溝を大事に守っています。



江戸期から田畑を潤す毎床溝

江戸期の毎床溝の開削は水稻栽培を可能にし、大正期には一勝地梨の産地化という恵みをもたらしました。営農条件としては不利な山間地の山肌に築き上げられた棚田の景観は、先人の営みに思いを馳せることができる貴重なものです。